

背景・目的

旭川青果物生産出荷協議会小松菜部会では、主に2月中旬（早限）から9月中旬（晩限）までがコマツナの播種時期となっています。本試験では、作付け回数の増加を目指し、早限播種時の生育が基幹品種‘春のセンバツ’より早く、晩限以降の播種でも出荷可能となる、低温伸長性に優れた有望品種の選定を行いました。

結果

播種期は2回、各8品種で試験

作期1：2月16日
【播種早限】

作期2：9月25日
【播種晩限後】

全ての品種が
‘春のセンバツ’
より生育が早く、
低温伸長性に優れる

その中で
収量性 作業性
在圃性等 に優れる
‘さくらぎ’が有望

‘さくらぎ’の特性

‘春のセンバツ’よりも生育が早く、収穫日数（播種から収穫までの日数）が短い

‘さくらぎ’の収穫日数は、両作期とも‘春のセンバツ’より4日早く収穫できました。

生育が早い品種の中では最も多収、作業性も良好

‘さくらぎ’は、‘春のセンバツ’よりも収穫日数が4日以上早い品種の中では、両作期とも最も多収でした。ただし、‘春のセンバツ’に比べると生育が早い分一株重が軽く、収量性は劣りました。

また、極立性で茎が硬く、収穫及び調製時の作業性は申し分ありません。

2月16日播種	発芽日数 (日)	発芽率 (%)	収穫日数 (日)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	一株重 (g)	規格内収量 (kg/a)
春のセンバツ	12	90	50	28.1	13.3	45	396
さくらぎ	11	96	46	28.1	9.6	35	346

9月25日播種	発芽日数 (日)	発芽率 (%)	収穫日数 (日)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	一株重 (g)	規格内収量 (kg/a)
春のセンバツ	4	93	38	28.5	10.5	33	336
さくらぎ	4	99	34	28.2	7.4	22	213



(作期1)春のセンバツ



(作期1)さくらぎ



(作期2)春のセンバツ



(作期2)さくらぎ

両作期とも気温が平年よりも高く、作期2は晩限後の播種でしたが、‘春のセンバツ’でも低温による生育停滞が見られずに収穫できました。

結果の活かし方

9月下旬に播種が可能なハウスであれば、‘さくらぎ’を栽培することにより作付け回数の増加が見込めます。

なお、‘春のセンバツ’も9月下旬の播種で収穫に至りましたが、収穫の可否は播種後の天候に大きく左右されるため、安定生産のためには‘さくらぎ’を推奨します。